

4. 地下水 そのうもれた資源をいかすコツ

山本荘毅・柴崎達雄共著

畑地かんがい研究会 刊

(初版 1959)

B6判 p.143 定価 200 円

(改訂版 1966)

新書判 p.155 定価 300 円



初 版



改訂版

目 次

- 第1部 水は天から（生きている水、雨滴の地下潜行）、地下水も動く（牛の歩みと地下水の速さ、目に見えない地下の流れ、関東平野に掘抜き井戸が多いのは）、よい水と悪い水（飲める水、鉱水・ガス水、海底から真水をとる、糞尿を飲む人々、夏冷たくて冬暖かい）、地下水を探る（弘法の水、岩石の相から水を占う、普通の地下水も掘み難い、地下水調査の三要素）、井戸を掘る（水商売繁昌記、いろいろな井戸、同じ孔掘りでも井戸とボーリングは違う、深井戸は慎重に掘ろう、深井戸の管理をよくしよう）、水の値段を勘定する（ただのものはない、アメリカの農業用水の値段、日本の農業用地下水はいくら位か）、地下水を旨く使う（使える地下水、地下水の寿命をもたせるために、地下水による畑かん）
- 第2部 地下水のあり方、段丘の地下水（町中の井戸が涸れてしまった話）、火山山麓の地下水（白糸の滝、火山の中をのぞいてみたら、富士の白雲はとけて流れて、山をみて水を探すのたぐい、まとめ）、扇状地の地下水（平野と山のつなぎ手、扇状地の地質、まとめ）、丘陵の地下水（上総掘りの生まれ故郷、水は方円の器に従う、丘陵は自然の地下貯留池、まとめ）、山地の地下水（山へついたらひきかえせ、地すべりと地下水、まとめ）、火山性台地の地下水（南と北、九州と北海道、シラス台地と大バコ小バコ、シラスの災害と地下水、江津湖の水はいずこから来るのか、まとめ）、平野の地下水（海面下の土地、平野の基そ地盤を探る、地下水を大切にしよう、まとめ）、河谷の地下水（化石になった谷、地下の状況からみた河谷のいろいろ、化石谷を生きかえらす、まとめ）、砂丘の地下水（ドライな砂丘とウェットな砂丘、九十九里浜はなぜ一直線か、砂丘の浅い地下水と深い地下水、まとめ）、台地の地下水（地上を走る地下鉄、風ふけばオケ屋がもうかる、台地の浅い地下水と深い地下水、台地の深い地下水を求めて、まとめ）

紹介コメント

著者らは序文で執筆動機について「地下水に関する正確な知識の要求される今日、誰にでも分かり易く、面白おかしく書いたものが必要でないかとすすめられて筆をとっただけである。」と記載されているが、内容は科学的に調べられたものを写真や図を多く挿入して

地下水ブックガイド

分かりやすく書かれており、今読んでも十分に面白く興味を持つことができる。著者は当時の農林省資源課に勤務されて地下水開発の最先端に立ち業務をされており、その成果がふんだんに盛り込まれ込められている。その後、お二人は大学教授として教鞭をとられるようにもなった。本書の第1部は山本先生、第2部は柴崎先生が記述されている。現在より50年以上も前の書籍のため、その後調査後の技術進歩に伴い更に新たな成果が出てきた部分もあるが、地下水全般を学ぶ者にとっては貴重な本である。